

第2回会議の意見交換の振り返り

(1)意見交換のテーマ

第1回会議で出た銚田市の公共交通の課題を基に、下記テーマで意見交換をしていただいた。

【テーマ】

- ①自身や周りの人が日頃から公共交通に対して思っていること
- ②交通弱者の移動手段を支えるため、地域及び市が行うべき役割
- ③銚田市の公共交通の方向性
- ④その他

(2)意見交換の結果のまとめ

第2回会議の意見交換で出た意見を項目ごとに分類整理した。

【運行状況・利用状況】

- ・大洗鹿島線の利用者は学生が多い。高齢者はいない。
- ・民間路線バスを市内から利用する人はほとんどいない。
- ・大洗町や鹿嶋市のコミュニティバスを利用している人がいる。
- ・大洋地区（主として別荘）では、共助として近所の仲の良い人が送迎を行っているケースがある。
- ・1人暮らしの高齢者については、家族の送迎、徒歩により買物や病院に行っている。
- ・涸沼駅に近い地区については、水戸市や大洗町に買物に行く人が多く、銚田市内へ向かう人は少ない。

【対象者】

- ・交通弱者（主に高齢者・子ども）を重点的に、施策を検討する必要がある。
- ・子育て世代に対する負担軽減が重要。

【交通モード】

- ・大洗鹿島線を軸とした公共交通対策が必要。
- ・路線バスが運行すれば、小中学生を含め一般の方も乗車できると思われる。
- ・タクシー事業者については少ない訳ではない。
- ・小学校のスクールバスに中学生は乗車できないのか。（雨天時等の利用）
- ・スクールバスを活用して、コミュニティバスとして運行してはどうか。
- ・銚田市内を運行するのであればコミュニティバスが良いのでは。
- ・最寄駅から観光地に行くための交通手段が有ると良い。
- ・鹿島灘駅までの交通手段があると良い。

【サービス内容】

- ・高齢者にはドアトゥドアのシステムが必要。
- ・年金受給者（低所得）のために料金が安価でないと利用できない。
- ・乗合タクシーは、当日の予約が出来ないなど使用しづらいとのこと。
- ・乗合タクシーは、運行本数が増えれば利便性が向上し、利用者も増えると思う。
- ・利用者の需要時間を考慮すべき。

【財源】

- ・費用対効果を考えながら検討することが必要。
- ・現在ある公共交通と施策の組み合わせが必要。かかる費用を抑えないと継続出来ない。

【サービス主体】

- ・学校や商店とどのように結び付けていくか。
- ・共助によるボランティアの運行が必要。社協等がボランティアとして運行してくれれば良いと思う。
- ・行政区未加入者が増え、地域の繋がりが希薄化していく中で、共助の危機を懸念している。

【利用促進】

- ・市民に分かりやすい広報や公共交通の利用を促すPRが必要。
- ・乗合タクシーの利用方法が周知されていない。大洋地区のみで良いので周知してほしい。

【施策】

- ・地理的条件を考慮したうえで、地域に合った施策を行うべき。
- ・1つだけの施策で全てを賄うのは難しいので、現在ある公共交通と施策の組み合わせが必要。
- ・コミュニティバスと乗合タクシーの利点を組み合わせ、ルール設定することが望ましい。
- ・現実的にはB案の乗合自動車のエリア拡大（市全域）及び年齢制限の撤廃か。
- ・B案（全市を乗合タクシーとする）が良いと思う。
- ・C案（共助による移送システム＋乗合タクシー）が良いと思う。
- ・C案（共助による移送システム＋乗合タクシー）であれば細かく回れるので効率的。需要はあると思う。
- ・D案（タクシー助成券の配布）が良いと思う。
- ・タクシー利用助成とデマンドとの組み合わせは難しい。デマンドへの移行までの暫定利用としては如何か。

【参考資料】意見交換の結果(テーマ毎)

第2回会議の意見交換で出た意見を下記の項目で整理した。

【運行状況・利用状況】

【対象者】

【交通モード】

【サービス内容】

【財源】

【サービス主体】

【利用促進】

【施策】

※網掛けは、意見のでなかった項目

テーマ① 自身や周りの人が日頃から公共交通に対して思っていること

【運行状況・利用状況】

- ・大洗鹿島線を利用しているのは、学生が多く、高齢者は利用していない。
- ・水戸駅への民間路線バスの乗車はいない。茨城町から乗車する高齢者は多い。石岡駅へ向かうバスの利用者も殆どいない。
- ・国道51号の路線バスが廃線となるが高齢者は利用していないようである。
- ・涸沼駅までは、大洗町のコミュニティバスが巡回しているので利用している方も多い。
- ・大洋地区には、国道、県道2本が南北に走っているが、バスは運行していない。
- ・民生委員として大洋地区を巡回しているが、バスの利用は「とっぷ・さんて大洋」だけである。
- ・1人暮らしの高齢者については、家族の送迎により買物や病院に行っている。
- ・病院については薬局の送迎があるようである。
- ・涸沼駅に近い地区については、水戸市や大洗町に買物に行く人が多く、鉾田市内へ向かう人は少ない。
- ・カスミへの買い物は、基本的には徒歩による。
- ・大洋地区（主として別荘）では、共助として近所の方が送迎を行っているケースがあるが、仲の良い人は送迎するが、仲の悪い人は送迎しない状況にある。

【対象者】

- ・交通弱者（主に高齢者・子ども）を重点的に、施策検討する必要がある。
- ・免許返納者（高齢者）は、公共交通機関までの移動手段が無く、気の毒である。ドアトゥドアのサービスが無ければ返納者は増えない。
- ・子育て世代に対する負担軽減が重要。このままでは、人口減少に歯止めがかからない。

【交通モード】

- ・大洗鹿島線を軸とした公共交通対策が必要。
- ・日頃からバスを利用しない。近くにバス停がない。
- ・タクシー事業者については少ない訳ではない。
- ・最寄駅から観光地に行くための交通手段が有ると良い。

【サービス内容】

- ・バス事業者は乗務員が不足しており、運行本数が減るため収益も減少するという悪循環に陥っている。
- ・高齢者は、自宅から停留所（駅）までが遠い。ドアトゥドアのシステムが必要。
- ・ドアトゥドアで無ければ利用者は増えない。
- ・乗合タクシーの利用を薦めているが、当日の予約が出来ないなど使用しづらいとのこと。
- ・年金受給者（低所得）のために料金が安価でないと利用できない。

【財源】

- ・費用対効果を考えながら検討することが必要。

【サービス主体】

【利用促進】

- ・公共交通に関する情報が少ない。
- ・バスに乗車したことがない、又は、最近利用していないので、乗り方や料金の支払い方が分からない。
- ・乗合タクシーは3～4日前までの予約だと思っている人が多く、利用方法が周知されていないので周知してほしい。

【施策】

- ・病院やスーパー等ができれば、高齢者は増える一方なので、C案（共助による移送システム＋乗合タクシー）であれば需要はあると思う。

テーマ② 交通弱者の移動手段を支えるため、地域及び市が行うべき役割

【運行状況・利用状況】

- ・鹿島灘駅には鹿嶋市のコミュニティバスが巡回している。コミュニティバスを使用して鹿嶋市内の病院やショッピングセンターへ行っている。

【対象者】

- ・とくし丸（移動スーパー）は、買い物弱者（高齢者）が多かったので始まった。
- ・交通弱者を地区で把握する必要がある。
- ・80歳以上になると免許返納になることがある。
- ・学校までの移動手段は有る（スクールバス）が、遊びに出掛ける際は親の送迎が必要。

【交通モード】

- ・路線バスが運行すれば、小中学生を含め一般の方も乗車できると思われる。
- ・小学校のスクールバスに中学生は乗車できないのか。（雨天時等の利用）
- ・スクールバスを活用して、コミュニティバスとして運行してはどうか。他の地域を参考にして。
- ・銚田市内を運行するのであればコミュニティバスが良いのでは。
- ・鹿島灘駅までの交通手段があると良い。

【サービス内容】

- ・免許返納者の状況を確認し、高齢者率に応じたルート設定が必要。ただし、茨城交通の事例を挙げると、高齢化率が高い地区を運行しても乗車率は低い状況であった。
- ・高齢者にとって大洗鹿島線は陸橋となっているため登り降りが大変である。新銚田駅にエレベーターを設置してほしい。
- ・大洗鹿島線は料金が高いが、コミュニティバスは料金が安い。
- ・乗合タクシーは、運行本数が増えれば利便性の向上し、利用者も増えると思う。

【財源】

- ・現在ある公共交通と施策の組み合わせが必要。かかる費用を抑えないと継続出来ない。

【サービス主体】

- ・学校や商店とどのように結び付けていくか。
- ・共助によるボランティアの運行が必要。社協等がボランティアとして運行してくれれば良いと思う。
- ・行政区未加入者が増え、地域の繋がりが希薄化していく中で、共助の危機を懸念している。

【利用促進】

【施策】

- ・1つだけの施策で全てを賄うのは難しいので、現在ある公共交通と施策の組み合わせが必要。
- ・C案（共助による移送システム＋乗合タクシー）にある大洗鹿島線と3本の路線バスをつなぐための、地域で助け合う共助の乗合タクシーの組合せは細かく回れるので効率的で良いと思う。

テーマ③ 銚田市の公共交通の方向性

【運行状況・利用状況】

【対象者】

【交通モード】

【サービス内容】

- ・利用者の需要時間を考慮すべき。

【財源】

【サービス主体】

【利用促進】

【施策】

- ・地理的条件を考慮したうえで、地域に合った施策を行うべき。
- ・コミュニティバスと乗合タクシーの利点を組み合わせ、ルール設定することが望ましい。
- ・現実的にはB案の乗合自動車のエリア拡大（市全域）及び年齢制限の撤廃か。
- ・B案（全市を乗合タクシーとする）が良いと思う。
- ・C案（共助による移送システム＋乗合タクシー）が良いと思う。
- ・D案（タクシー助成券の配布）が良いと思う。
- ・タクシー利用助成を行うとして、月1回利用を想定したとして台数が充分かどうか。
⇒支障ないと思われる。

テーマ④ その他

【利用促進】

- ・市民に分かりやすい広報や公共交通の利用を促すPRが必要。
- ・乗合タクシーについて、再度、大洋地区のみで良いので周知をしてもらいたい。

【施策】

- ・タクシー利用助成とデマンドとの組み合わせは難しい。デマンドへの移行までの暫定利用としては如何か。